

## AQUA

2014年10月発行39号 すどう美術館  
〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内373  
TEL.0465-36-0740 FAX.0465-36-0739  
info@sudoh-art.com  
http://www.sudoh-art.com

ここは富水 すどう美術館の新しい活動の場  
こんなと水が湧くようにアートも湧めども尽きない希望が湧いてくる  
水はわたしたちになくはならないもの「AQUA」が誕生する



## 三次元の蟻は垣根を超える



## 太田憲

今回の展示会「垣根を超えてみる③」では今までにない取り組みが始まろうとしている。寄木細工グループ雑木囃子5人、一人ひとりが朝比奈さんの作品と自身の作品とを融合させる。

・互いのもつ力を引き出し合うようにして垣根を超えてみる  
・普段では決してできないものづくりをしてみる  
・そのためには互いのプロセスを知ること  
・ともに活動する意義を深めよう

朝比奈さん、雑木囃子メンバーでの話し合いは夜遅くまで続いた。日頃、「ものづくり」についてメンバーと語り合うことはないだけに皆との語らひは新鮮だ。

印象深かった朝比奈さんの言葉がある。「独自性が絵の価値。本当の新しさとは、自分の中から生まれる。イメージしたものではなく、心の底のものを。」今までの僕の寄木といえば、使い道が決まっているものばかりである。そこには使いたくなる寄木細工として、寄木細工に用途を持たせることで、より多くの人にその魅力を伝え、身近に感じてほしいという願いがある。でも今回ばかりは機能という型をとり払ってみよう。

朝比奈さんのような「心の針に従って」「直感に従って」創造をする、独自性を追求したもののづくり。実験してみよう。意味をなさない寄木細工。

力をもった物体。自信をもってつくってみる。その先に新しい寄木の形が生まれるかもしれない。ワクワクが止まらない。

仙仁司

## 点描

## こんな話でよかったら (26)

前回に続く、ヒヨドリ営巣の話。5月26日、1週間のNY旅行から戻ると、台所の窓越しすぐにあるスモークツリーに異変、地上2m程の三又を利用した巣作りの真最中で、2~3mmの太さをした枝状の植物を嘴で織り込んでいる。

住人の留守の間に静かで安全な庭と勘違いをしたようであった。こうなれば可能な限り生活のリズムを合わせるように物音をたてないようにし、遮光カーテンを閉めて気配を感じとられないようにして、元々動植物好きの妻と長男3人でそれぞれの時間に観察を始めることにし、見そこなった様子を補完しながら。どうやら産卵は5月末から6月始め、次の抱卵期間が約2週間、雛がかえったらしく親鳥はしきりに餌を運び、雨の日は翼を広げてジツとかがう様子。巣の深さが20cm程あって最初のうちは中の様子は観察できなかったが、1週間程して先ず2羽が嘴だけのよう頭を見せ、3日後にもう1羽、更に3日程してもう1羽、都合4羽の雛が確認できた。

巣立ち。6月30日早朝、親鳥が近くで促す中で、成長の早い2羽が無難に飛び出し、しばらくして3羽目が飛んだ、4羽目だ、なかなか飛び立てない、ようやく飛んだと思ったらそのまま落下、そこから母親の活躍がすごい、親鳥の目印であるかのように花びらを啜って声を出して高みに誘い、何度も何度も失敗を重ねても諦めず促し続ける母鳥、応えようと頑張り雛、約7時間のドラマだ、4羽目も巣立ちに成功。

野性化した野良猫のしつこい来襲が何度もあり、よけて車道にでたりで心配の連続であったが見事にクリア。狭い庭に見つけた生命の家族ぐるみのリポートでした。

## 「GAPPE」の活動と「小田原もあ」展

お知らせしている「GAPPE」(東日本げんきアートプロジェクト)の三回目となる活動は十月十一日(土)から十三日(月祝日)の三連休に今年も岩手県の大槌町で行われます。眺めきれいな浪板海岸のホテルが「三陸花ホテル」の協力で、そのホテルの使用ができ、十八人の作家の五十点のぼる作品の展覧会、ヴァイオリンとピアノのコンサート、そしてワークショップが行われます。さらに今回は現地である二つの施設(ベルギーディア山森の図書館と虎龍山吉祥寺)の代表にご協力をいただき、この二カ所でもワークショップが行えることになりました。今年のチャリテイ展やチャリテイコンサートでの売

上、たくさんの方々の協賛による基金のほか、クラウドファンディングというシステムを利用し、一般の方々にも働きかけをし応援をお願いしました。多くの皆さまのお力でプロジェクトの活動が続けられることに感謝です。

十一月は十一日(火)から二十三日(日)まで、すどう美術館で「小田原もあ」の活動、「三次元の蟻は垣根を超える」の展覧会が開催されます。

現代美術作家と小田原で活動する工芸作家のコラボレーション展が、「三次元の蟻は垣根を超える」のタイトルで、新しいものに挑戦しようとする気持ちがますます強まり、楽しい展示会になるものと期待が膨らんでいます。楽しい展示会になるものと期待が膨らんでいます。楽しい展示会になるものと期待が膨らんでいます。

すどう美術館館長 須藤一郎



笑顔

大槌町の光景は、所々まだ震

初めて、友人に連れてこられて来たすどう美術館は、小さな駅を降りて、田園に囲まれた場所にありました。中に入ると、そこには、心地良い空間を残して、数枚の絵が飾られていました。抽象画、現代美術にこだわられていて、この絵は一体何を語ろうとしているのだろう。私は、その時から絵との対話が始まり、引き込まれていき、そして、私は、絵を観ることに「答え」はなく、「感じる」ことが大切だと、気付かされました。そして、絵を観る時間が、

自然と心を掘り下げて、心の中の泉を豊かにしてくれている、そんな気がするのです。音楽で言えば、ここに飾られている絵は、即興音楽や、バツハで云う無伴奏のような世界。私は朗読を生業にしていますが、詩の世界と似ているような気がします。絵が「今ここにある」、それはまるで、館長さん御夫妻の自由な生き方とだぶっているようです。絵を観た後の歓談もまたとても豊かな時間が流れています。本物を見る目とはどういうことか、未熟な私の心の隙間をそつと満たしてくれます。決してぶれることがなく、燦し銀のように光り輝くものとは、こう云うものだ、菅創吉さんの絵が語っているようです。私は、そんなすどう美術館での時間の積み重ねの中で、本来、絵を楽しみ味わうことの価値に気付かされました。銀座でなく、この富水に溶け込んで、本物の絵があると云うこと、それはとても意義深いものだと思います。実りの秋、絵を観る時間を大切に、心の中に豊かな物を貯えていきたいと思うこの頃です。

三次元の蟻は垣根を超える vol.3  
11月11日(火)～23(日)月曜休館  
11:00～19:00(最終日～17:00)

マリア・レイア展  
11月25日(火)～12月7日(日)月曜休館

11:00-19:00(最終日～17:00)  
作家のことは  
かつての私の作品の中に「過去からの幻音」と題された作品が、あります。  
そこに描かれているのは、ヨーロッパ製の骨董の大きな自動演奏楽器で、  
ホールに鳴るその音は、300年の時空を超えて響いてきた様でした。  
当時病み上がりの私にとって、博物館でのこの不思議な出会いは、今でも鮮やかな思い出となっています。個展にはこのS100号の作品を展示する予定です。

展覧会 info

白いノート 17



笑顔  
大植町の光景は、所々まだ震災の爪痕が痛々しい。明るい展望が少なく、先の見えない不安が長引き、被災された方々のストレスは深刻さを増していると聞く。その問題の大きさを思うと、私たちのげんきアートプロジェクトは、本当にささやかな活動であると思う。しかし、「震災から三年たった今、忘れ去られてしまうことが一番つらい。小さなことでも、続けてほしい」という地元の方の言葉を、メンバー全員が力を合わせ、又たくさんの方のご協力をいただき、三回目のげんきアート展開催にこぎつけた。  
展覧会場でのコンサートの後、声をかけて下さった方がいた。「昨年、展覧会で絵を見て本当に元気になりました。いただいた絵を部屋に飾って毎日見えていますよ。」と。そのひとこと胸がいつぱいになった。被災された方から直接受ける言葉は、いつも心の奥深いところに響いてくる。そしてまた、いい笑顔に出会えた。たいへんな思いをされたことを思うと、その笑顔は本当にうれしく、かけがえないものだった。このことを忘れずに、また作品を作っていきたい。

高橋玉恵

編集後記

今朝は初冠雪のあったという美しい富士山が白く輝いています。半年の入院中春が過ぎ、夏が終わり、また正月がきます。退院して、一か月が過ぎました。まだ週二回、訪問リハビリを受けていたり、週一日はティサービスに通ったりの生活ですが、おかげで着実に回復に向かっているように思います。  
先日は「東日本げんきアートプロジェクト」の活動で、美術館から出発し若手桌の大植町に行く方たちを見送ることはできましたが、自分が参加できないことにとっても歯がゆさを感じました。でも、美術館で皆さまにお会いできるように頑張ります。今回のAQUAで紹介されている「小田原もあ」をはじめとするこれらの展覧会をすこく楽しみにしています。

須藤紀子

ギャラリー無有齋 展覧会 info

江東区牡丹 3-32-2  
Tel03-3641-0747

岡野里香 ceramic art 展 「Voice of The Frost」  
11月7日(金)～23日(日) 金土日開催

11:00～18:00(最終日～17:00)

作家のことは  
発展途上の細胞が有機体に変化していく途中のように、時にはまとまり、またほどけるように分裂する。一枚ずつのピースに写り込んだ影は、写真の二コマ。その連続は映像のようであり、時間は地層となって降り積もる。陶によるインスタレーション・立体・器の展示です。会期中もカタチは変化していきます。どうぞその現場にお立ち会い下さい。

続々 世界一小さい美術館ものがたり

・私が絵を選ぶ基準はその絵をそばに置いて一生一緒に暮せるかということであり、表面の美しさやうまさではなく、その奥の画家的内面的なものがしつかり伝わっているかどうかである。  
・私は絵を買う時の心境を「真剣勝負の衝動買い」といって、いい絵を一生懸命選んだら、最後は後先考えず衝動で買ってしまわなければ、幸福の青い鳥は飛んで行って二度と帰ってこない。  
・美術館を開いたのは美術の作品は、大勢の人に美術の作品は、大勢の人に道であり、また、自分が絵から受けた感動を他の人にも伝えるべきと思った

からである。  
・私が体験したように一枚の絵が人の一生を変えてしまうことがあるほど重い責任を持つているという。ことを画家は知ってほしい。  
・いい作品をつくるには、まず自分を磨くことである。どれだけ豊かな人生を送っているかが最後の決め手になる。きれいなテクニクだけでは人の心を動かすことはできない。  
・私は人生というものは長い旅であって、楽しいことや苦しいことがあっても、すべてが続いているものと考えている。だから私には「第一の人生」しかない。そして、自分の人生の評価は自分で決めるものと思っ

東変木 流星の果てるあたりに君が棲む 和韻 途中までユニコーン

すどう美術館友の会

AQUA クラブ入会のご案内

入会随時

年会費

一般会員 3,000円

特別会員 10,000円

法人会員 50,000円

入会随時

納入方法 ご来館時または郵便振込みでお願いします

・郵便振込み No.00270-7-97439

・加入者名 すどう美術館友の会 「AQUA クラブ」